

県大 jiman

滋賀県立大学広報誌
第7号007
July, 2010

キャンパスは琵琶湖。

県大生が作る大学広報誌

特集

特集 キャンパスは琵琶湖
県大と琵琶湖の関係とは？ 2

学生企画 県大便利帳 part3
すむ、はたらく、くつろぐ。 6

県大Report

Labo Report
県大jimanな研究室。今回は人間看護学部松本行弘研究室です。 8

Class Report
あの授業はどんな授業？今回は英語教育です。 8

After School Report
今回は京滋戦レポートです。 9

県大 Book Review
今回は県大の先生が執筆した本を紹介します。 9

トピックス&インフォメーション
県大イベントカレンダー 10

「県大 jiman」について
琵琶湖と滋賀の自然をイメージカラーにし、胸を張って「自慢」する、明るく前向きに活躍する気持ちをロゴにデザインしました。

滋賀県立大学
The University of Shiga Prefecture

8月	7	土	夏季休業開始
	7~27	土~金	レイクスベリオル州立大学(LSSU)夏期プログラム
	7-8	土・日	オープンキャンパス2010
	9~11	月~水	集中講義期間
	9	月	3年次編入学試験(工学部)
	9	月	大学院入学試験(工学研究科博士後期課程)
	10	火	大学院入学試験(工学研究科博士前期課程)
	11	水	第2回琵琶湖塾 講師:勝間和代氏(経済評論家)
	21-22	土・日	荒神山ロックフェスティバル2010
	26	木	大学院入学試験(人間文化学研究所生活文化学専攻博士前期課程)

9月	4	土	3年次編入学試験(人間看護学部)
	8	水	第3回琵琶湖塾 講師:ニール・スミス氏 (特定非営利活動法人グリーンスポーツ鳥取代表)
	22	水	3年次編入学試験(環境科学部)
	15~29	水~水	集中講義期間
	28-29	火・水	大学院入学試験(環境科学研究科環境計画学専攻博士前期課程)
	28-29	火・水	大学院入学試験(環境科学研究科環境動態学専攻博士前期課程)
	29	水	第4回公開琵琶湖塾 講師:藤原和博氏(大阪府知事特別顧問/ 前・杉並区立和田中学校校長/東京学芸大学客員教授)
	30	木	大学院入学試験(環境科学研究科環境計画学専攻博士後期課程)
	30	木	夏季休業終了

10月	1	木	後期授業開始、後期公開講義開始
	13	水	第7回就職ガイダンス(就職活動直前対策セミナー)
	14-15	木・金	大学院入学試験(人間文化学研究所地域文化学専攻博士前期課程)
	16	土	第2回就職対策講座(一般常識試験対策セミナー 模擬テスト)
	30	土	第3回就職対策講座(SPI試験対策セミナー 模擬テスト)

11月	4	木	大学院入学試験(人間看護学研究科修士課程)
	10	水	第8回就職ガイダンス(就職活動体験談発表)
	11	木	「湖風祭」前日準備(全学休講)
	12~14	金~日	大学祭「湖風祭」
	13-14	土・日	入試相談会
	15	月	「湖風祭」後片付け(全学休講)
	17	水	第5回琵琶湖塾(公開琵琶湖塾) 講師:杉山愛氏(プロテニスプレーヤー)
	20	土	第4回就職対策講座(エントリーシート・履歴書対策)
	24	水	第5回就職対策講座(グループディスカッションセミナー)
	28	日	特別選抜試験

12月	1	水	第9回就職ガイダンス (業界研究・企業研究セミナー、企業人事担当者による対談)
	11	土	第6回就職対策講座 (面接対策セミナー ビジネスマナーと面接突破方法)
	22	水	第6回琵琶湖塾 講師:香山リカ氏(精神科医・立教大学現代心理学部教授)
	25	土	冬期休業開始

1月	4	火	冬期休業終了
	5~8	水~土	集中講義期間
	10~18	月~火	企業研究会(学内業界・企業研究会)
	15-16	土・日	大学入試センター試験
	26	水	第7回琵琶湖塾 講師:福山哲朗氏(参議院議員)

県大event calendar

滋賀県立大学広報誌「県大jiman」は県大が持つキラリと光る「jiman」などを紹介する広報誌です。今回の特集は「キャンパスは琵琶湖」をテーマにしました。県大のモットーは「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」ですが、どれだけ浸透しているのか、また、どんな教育研究活動があるのかなど気になって企画しました。「県大jiman」をよりよい広報誌に育てていくために、今後みなさんの協力をいただきたいと思いますので、ご意見・ご感想をお寄せください。

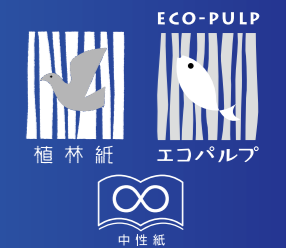
学生広報スタッフ大募集！
広報誌作成グループでは、県大jimanの作成に参加してくれる学生を募集しています。私達と一緒に、県大の素敵な「jiman」をしてみませんか。デザインの専門知識がなくても大丈夫です。興味のある方は、気軽にお問い合わせください。

From広報スタッフ

4年目もがんばります (人間文化学部4回生 田辺 京子)
環境で昼食も楽しいですよ (人間文化学部3回生 澤田 奈緒)
県大Jimanが出来るまでを近くで (人間文化学部2回生 西村 奈月)
見れて楽しかったです！ (人間文化学部2回生 中西 未紅)
初仕事！楽しかったです (人間文化学部2回生 中西 未紅)
琵琶湖のモイスチャーな風に (人間文化学部 佐々木 一泰)
あおられています

滋賀にちなんだ授業がいっぱい (人間看護学部4回生 林 怜史)
琵琶湖は最高の教材だと知りました (人間文化学部3回生 中田 瑞季)
途中参加やけど楽しかったです (人間文化学部2回生 高井 明日美)
琵琶湖に潜ってみたいになりました (工学部 河崎 澄)
琵琶湖大好き！ (事務局 矢野 圭昭)

滋賀県立大学広報誌「県大 jiman」第7号
発行/滋賀県立大学広報委員会
編集/広報誌作成グループ
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500
Tel. 0749-28-8200 Fax.0749-28-8470
URL: http://www.usp.ac.jp/
E-mail: webmaster@usp.ac.jp
発行日/2010年7月30日



特集

キャンパスは琵琶湖

県大のモットーは「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」
琵琶湖の湖岸に位置する県大は、琵琶湖やその周辺の地域をフィールドに多様な教育や研究活動を展開しています。県大と琵琶湖との関わりについて、全ての活動を取り上げることができませんが、その一部を紹介したいと思います。

学ぶ

海洋スポーツ
琵琶湖ならではの
スポーツを習得する

(国際教育センター 寄本明教授)

全学共通基礎科目の健康・体力科学に「海洋スポーツ」という授業があります。内容は、カヤックカヌー、ヨット、ボードセーリングなどの操作を実際に学ぶとともに、座学ではこれらのスポーツの理論のほか心肺蘇生法など安全管理についても学ぶことができます。

2回生の前期科目(夏季の集中実習)が中心として、8月の下旬に3泊4日で大津市内の施設で行われます。毎年50〜60人の参加があり、開学時からの受講者総数は800人程度になります。

琵琶湖をフィールドに自然と親しみながらスポーツを楽しむための基礎的な知識や技能が習得できる、県大らしい授業です。



ボードセーリングの授業

学生の感想では「琵琶湖が好きになった」、「実は海洋スポーツは楽しいものだということがわかった」授業以外のパーテイやレクリエーションも楽しかった」など貴重な体験ができてよかったという意見が多く寄せられています。

学ぶ

近江文化論
琵琶湖をめぐる文化を学ぶ

(人間文化学部 京楽真帆子教授)

全学共通科目・人間学に「近江文化論」という授業があります。近江の持つ地域的特性と、それを基盤とする文化の特質を歴史学視点から探ります。

京楽先生は、滋賀になくはない琵琶湖をめぐる文化をぜひ知ってもらいたいそうです。また、日本史の視点からでは、織田信長は先進的な人物で英雄である、と捉えられがちですが、近江という視点から信長を見ると、実は侵略者であった!など、普通に日本史を学ぶだけでは気づかなかった事実も発見できます。



16世紀末石田三成が城主となった佐和山城跡(彦根市)

県外から来た人にとっては様々な滋賀の文化を新鮮に学ぶことができ、滋賀の魅力や歴史を今以上に感じることができ、授業です。

学ぶ

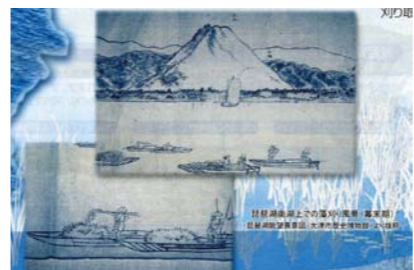
滋賀の自然史
琵琶湖から自然と人の
関係を探る

(環境科学部 浜端悦治准教授)

全学共通科目・人間学の「滋賀の自然史」では、琵琶湖やその集水域について学びながら、琵琶湖と人間との望ましいあり方について考えます。

古代湖の一つとしても数えられる琵琶湖は、多くの生物種を育み生物多様性の観点から重要であるだけでなく、人と自然との共存のバランスのとれた例として世界的に見ても貴重な存在です。

例えば、水草は、やっかいなものと思われがちですが、昔の人々はこれを採取して農地へ肥料として利用していました。近年では化学肥料の普及により利用する機会はなくなりましたが、水草は水質浄化にも関係することが明らかに



琵琶湖南湖上での藻狩り風景 (琵琶湖眺望真景図(大津市歴史博物館)より抜粋)

なっており、浜端先生の水草研究は琵琶湖だけでなく世界の湖沼に広がっています。この授業で琵琶湖の昔の姿や先人の知恵を学ぶことにより我々の生活そのものを見つめ直すきっかけとなるだけでなく、これからの環境問題を考えるためのヒントを得ることができ

学ぶ

環境フィールドワーク
フィールドで環境問題を
体感する

(環境科学部 教員)

環境科学部の学部共通科目で「環境フィールドワーク」という授業があります。琵琶湖とその周辺地域の自然と人間の間で生じている様々な環境問題を題材にし、フィールドで自分の五感を働かせて体験・学習します。

一般の授業と異なるのは、学生が実際に現地に赴き調査を行ったり、個人の興味に基づきグループワークを行うことにより、プレゼンテーション能力やレポート作成能力の向上も図ることができる点です。また、1回生から3回生(環境フィールドワークⅠ・Ⅱ・Ⅲ)までより発展的な内容を学ぶことができます。とても特徴となっています。



高島市の湿地帯での野外調査

2回生の環境フィールドワークⅡの「琵琶

学ぶ

陸水生態学・実験
琵琶湖を理解する

(環境科学部 三田村緒佐武教授、伴修平教授、浦部美佐子准教授、後藤直成准教授)

湖生態系の環境動態グループでは、実習調査船「はっさか」を使った湖上観測と、琵琶湖とその集水域から採取した試料を解析・評価する授業も行われます。具体的なテーマを定めて野外調査を行い、環境問題に対する総合的な理解を深めることができます。



琵琶湖の水の採取

「陸水生態学・実験」は、環境科学部生態学科の3回生の専門科目で、湖沼を理解するための基礎を学びます。実習調査船「はっさか」に乗船し、実際に湖へ出て、水や動植物プランクトンなどの採取を行い、それらを持ち帰って

学ぶ

地域看護論演習
地域を診断する

(人間看護学部 教員)

みなさん「保健師」をご存知ですか?保健師は赤ちゃんからお年寄りまで、健康な人から病気を抱えて生活している人まで、幅広い分野や場所を対象にして、人々の健康を支援する役割を担っています。

「地域看護論演習」では、地域保健看護活動の具体的手法として地区診断を学びます。彦根市をフィールドとして、住民の健康状態や生活状況、環境などのデータを収集・分析し、地域住民の健康課題を明らかにしていきます。学生は学内での学びを深めるために、彦根市にある保健所や彦根市福祉保健センターなどに出かけていき、住民生活の一部を体感します。人々が生活している住居や街並み、暮らしぶりなどを実際に観察することにより、既存の資料や調査からは得にくい地域独特の雰囲気や地理的条件、生活様式などの実際を学びます。

interview 01

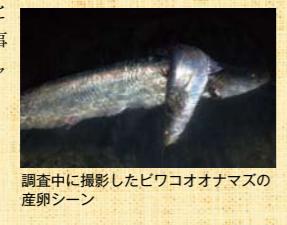
私と琵琶湖



金尾滋史さん
(多賀町立博物館学芸員
・環境科学部生物資源管理学科4期生)

私は滋賀県内に生息する淡水魚の生態や保全について研究しています。あるときはニゴロブナを観察するために田んぼへ、あるときはハリヨの保全のために川へ、そして時にはビワコオオナマズを求めて琵琶湖へ。学生時代は昼夜を問わず、フィールドに出かけており、大学にいる時間とどっちが長かったかを考えると悩んでしまいます。自分でフィールドに出かけて、自分の目で観察すること、自分の手で採集すること、そして色々な人と出会うこと、そして何より自分がそれを楽しまなきゃ、ユニークな研究は生まれません!!これが私のモットーです。

琵琶湖やその周辺のフィールドは、たとえ同じ場所に何度行っても同じことは起こらない、毎回違う顔が見えてきます。だから楽しいし、時には感動もある。そして何より「なぜ?」という疑問がどんどん出てくるんです。まだまだ謎が多く残されている琵琶湖やその周りの環境はそんな私の研究の楽しさを倍増させてくれ、私自身が「育つ」ことのできる大事な大事なキャンパスです。



調査中に撮影したビワコオオナマズの産卵シーン



臨地でのフィールドワーク

interview 04

私と琵琶湖



辻中輝さん
 (人間文化学部 生活デザイン学科 2回生・
 2010年度オープンキャンパスポスターデザイン)

ポスターはどれだけ目立つか、どれだけ目を引くかが大事だと思っています。琵琶湖に机と椅子を並べて勉強している風景は日常では絶対に見ることはないの、注目を集めるのではないかとこの写真を撮りました。

大阪出身なので、県大に来てから琵琶湖を身近に感じることできるようになりました。この写真を撮りに行ったことはいい思い出になりました。どの構図が良いか悩み、2回撮りに行きました。少し寒く、2回とも風邪を引きました。手伝ってくれた友達には本当に感謝しています。

琵琶湖が県大の近くにあることは、県大の環境にも影響していると思います。風が強かったり、生き物が多かったり…。そういう意味でもキャンパスは琵琶湖と言えると思います。



オープンキャンパス 2010ポスター

キャンパスは琵琶湖。
 テキストは人間。

自然・歴史・文化のバラエティ
 豊かなフィールドでの活動は
 まだまだ続きます。



エコトーンの水陸植物群落



湖沼環境実験施設

前線基地のような存在です。ここでは、現在、外国人留学生も含めて5名の大学院生が琵琶湖をフィールドにそれぞれのテーマで研究を行っています。

赤塚さんは、琵琶湖の水の環境から陸の環境へと変化していくエコトーン(推移帯)の研究をしています。エコトーンにおいて微生物の代謝である脱窒(微生物の嫌気呼吸の一種)が琵琶湖の環境にどのように関連しているのかを明らかにしようとしています。

赤塚さんは、「施設が琵琶湖のすぐ横にあり、実習船で定期観測もできるので、琵琶湖の研究にはたいへん恵まれた条件となっています。」とのことでした。



水槽を使った実験

江端重葉さんは、琵琶湖の水質調査や湖底の撮影を目的とした、水中グライダーの研究をおこなっています。水中グライダーは、飛行機のような形をしていて、遠隔操作で進行方向を変えながら、ゆっくりと潜行していくものです。プロペラなどを持たないシンプルな構造なので、実用化すれば従来の潜水艇よりも低コストで運用できる可能性があります。江端さんの課題は、水中でのゆっくりとした移動

江端重葉さん
 (大学院工学研究科機械システム工学専攻1回生)

突める
 琵琶湖の環境調査を目的とした
 水中グライダーの研究

interview 02

私と琵琶湖



河崎 澄准教授
 (工学部機械システム工学科)

私と琵琶湖のつながりは、大学でウィンドサーフィン部に入学したことから始まります。奈良県で生まれ育ち、海も湖も身近になかった私にとって、琵琶湖はとても大きに感じました。

部活に熱中していた頃は、沖合の風速・風向ばかり気になっていましたが、部活を引退してインストラクターのアルバイトしていた頃には、浜に打ち上げられるゴミとのイタチごっこを経験しました。そして、県大に勤務するようになってからは、季節によって琵琶湖をとりまく景色が多様に変化することや、地域によって街並みや風景が違ふところなど、様々な魅力も見えてきました。

琵琶湖は文字どおり県大のすぐそばにあります。この湖の存在が、美しい水と自然や尊い文化、住みよい暮らしを守っていく、そういう様々な分野の研究・活動のモチベーションを高めてくれるのではないのでしょうか。

には、どのような形の翼が適しているのかを、水槽を使った実験で調べることです。

突める
 水没村伝説
 琵琶湖湖底遺跡調査

林博通 人間文化学部教授、
 北川遼さん(人間文化学部4回生)

みなさんは琵琶湖には村が沈んでいるという伝承を聞いたことがありますか？



林研究室はこの伝承をもとに「伝承は本当か?」「村はなぜ沈んだのか?」などの実態を解明するため、平成9年度から琵琶湖の湖底遺跡調査を行っています。調査の結果、湖底に井戸跡が見られる、石垣の痕跡が見られるなどの理由から琵琶湖に水没村があることが証明されました。村が沈んだ原

interview 03

私と琵琶湖

～ミジンコとの出会い～



カナダでの修士論文の発表時の写真

登田涼子さん
 (滋賀県病弱教育訪問指導員、2009年3月
 大学院環境科学研究科博士前期課程修了)

小学生の頃、「うみのこ」の環境学習で琵琶湖のミジンコを顕微鏡で観察して、私は心を奪われました。琵琶湖のことをもっと知りたいと思うようになり、琵琶湖の生物に関する研究ができる滋賀県立大学に進学しました。

県大で再びミジンコに出会った私は、ミジンコの研究に没頭しました。ミジンコは陸水生系において、生産者と消費者とをつなぐ鍵種です。環境の変化に応じて、体の形態や色を変化させたり、個体数密度の違いにより成熟時期や産仔数、体長、寿命が異なったりします。私はミジンコの繁殖に関する遺伝子の役割を突き止めようと、何日も研究室に泊まり込みデータを集めました。これほど何かに夢中になれたことはなく、私はミジンコの研究で自分に自信が持てるようになりました。

「何で?」「知りたい」を探求する喜びや、琵琶湖の魅力一人でも多くの人に感じて欲しい。県大にはそんな授業がたくさんあります!

挑む

課外活動
 琵琶湖へはばたけ!
 航空研究会 Cool Sweets

航空研究会(Cool Sweets)は、彦根市の松原水泳場で行われる「鳥人間コンテスト選手権大会」(7月24・25日開催)で好成績を残すことを目標に、滑空機(グライダー)を製作しているサークルです。そして2010年、念願の出場権を獲得しました。航空研究会の部員は現在19名で、全体設計・翼製作・骨組み製作・コックピット製作・パイロットの各担当班が互いに連携して、機体を素材から「手作り」

していきます。先日、静岡県島田浜砂丘で行ったテストフライトも順調とのこと。代表の近藤大地さん(機械システム工学科3回生)によると「位置エネルギーを一杯使って、とにかく遠くまで飛ばす」のが目標だそうです。飛ばす、Cool Sweets!



実習調査船「はっさか」

大学のキャンパスから湖岸道路を渡ったすぐのところに、琵琶湖に隣接して湖沼環境実験施設があります。県大の琵琶湖の実地教育および研究を行う拠点となっており、実習調査船「はっさか」もこの施設の港から琵琶湖へ出ていくことから、県大の琵琶湖研究の最

赤塚徹志さん
 (大学院環境科学研究科環境動態学専攻博士後期課程3回生)

突める
 湖沼環境実験施設で琵琶湖の研究に取り組む

因には地震が考えられています。「今後、大きな地震が起こった際、現在の陸地が琵琶湖に沈む可能性もある。水没村から現代の防災対策を考える上でも湖底遺跡調査は意義がある。」と林先生は語ります。

湖底調査を行うにはスキューバダイビングの資格が必要です。ゼミ生の一人、北川さんは2回生の夏休みに1泊2日の合宿を経て資格を取りました。北川さんは「調査で遺物を発見出来たときの喜びはとても大きい。」と語る一方、「琵琶湖の湖底には様々なゴミが沈んでいて、水も汚い。調査を通して琵琶湖の環境を考えることにもつながった。」と語ってくれました。



琵琶湖の湖底調査のようす



環濠+鴨

大学内にある環濠は、昼休みに昼食をとるスペースとしても多くの学生の憩いの場となっています。水辺で鴨に餌をやりながら、ゆったりとした時間を過ごします。



空きスペースを利用して野菜づくり

研究室近くの空きスペースを利用して野菜づくりが行われています。研究の合間に世話をし気分転換しています。



看護棟1階コミュニティスペース

看護棟の中にあるスペースで、ここでグループワークをしたり、待ち合わせや食事をしたり、人気の憩いの場となっています。



看護棟2階テラス

眺望がよく天気の良い日は琵琶湖からの心地よい風を感じることができます。ちょっと穴場的な存在ですが食事をしたり、おしゃべりしたり、忙しい授業の合間の憩いの場として活用されています。



くつろぐ

以外と広い県大。憩いの場も様々。ここではその一部を紹介します。



nakaniwa.テラス

2009年に完成した食堂の中庭テラスは、食事の時だけでなく、今では様々な学生生活の憩いの場になっています。思い思いに机を囲んだり、階段に座ったり、ベンチに横になったりと、いろいろな使い方をしています。最近はベンチが机がわりにする人も！？

BENRIEEEEEE!!



県大便利帳

part 3

～すむ、はたらく、くつろぐ～

第5号と第6号では、県大生のファッションやランチ事情を紹介してきましたが、今回は、県大生の生活実態のデータをみながら“すむ、はたらく、くつろぐ”のお得？な情報を紹介します。



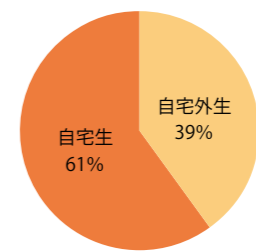
住む

2010年度の県大生の居住形態別のデータでは、自宅生が約60%、自宅外生が約40%の割合となっています。2009年に滋賀県立大学生生活協同組合が実施した「学生生活実態調査」(実施期間2009年10月、回答者数316人)によると、自宅外生の住居は、アパートかマンションが7割以上を占め、バス・トイレ付きの洋室タイプで、広さは8畳以上という住まいが大半を占めています。

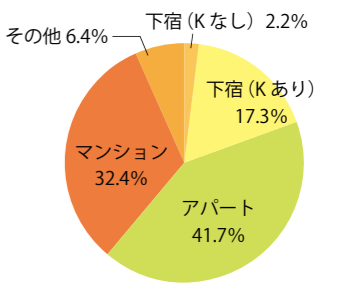
気になる自宅外生の支出ですが、住居費が約5万円となっており、支出合計に占める割合が5割弱で支出の中で最も高い割合になっています。

最近では、家賃を低く抑えるために民家をシェアする学生や、実習や卒業研究などで帰宅が遅くなる学生は、ウィークリーやマンスリーのマンションを借りるケースもあります。

□県大生の自宅生・自宅外生の比較



□住まいについて(自宅外生)



はたらく

県大の中で学生が働いているの知ってますか？ここではメジャーな学生アルバイトを紹介します。



実験・研究の手伝い

研究室活動の一部に学生がアルバイトすることもあります。

例えば、自治体から研究室に依頼があり、調査に協力しています。地域文化学科の濱崎・石川研究室と環境建築デザイン学科の富島研究室では、彦根市と協力して、「花しょうぶ通り商店街」の民家の調査を行っています。花しょうぶ通り商店街を、重要伝統的建造物群保存地区に選定するため、報告書を作るお手伝いです。内容は、民家の平面や断面のスケッチをし、各部分の長さを測り、学校で図面に起こしていくものです。

他にも、地域文化学科の水野研究室では、滋賀県日野町の『日野町史』の編集に関わっていました。先生方が地元のお年寄りに小字名や田圃の水利について聞き取りを行い、学生はメモを取り、調査カードにまとめていく作業です。調査に参加した4回生の真嶋彩乃さんは「本格的な調査に参加でき、良い経験になりました」と話していました。



留学生チューター

県大では、年々留学生が増えてきていますが、留学生が大学生活に慣れながら、日本語の習得や学習がスムーズにできるように、留学生チューター制度があります。大学へ来て1年以内の留学生を対象に、およそ1年間、週2時間以上、連絡を取り合って、学生生活の相談にのったり、いっしょに日本語を勉強したりしています。

人間文化学部地域文化学科の西村奈月さんは韓国(国民大学校)からの留学生の全(ジョン)さん(人間文化学部地域文化学科1回生)のチューターとして活動しています。活動をはじめて1か月あまりですが、いっしょに食事したり、おしゃべりしたりとコミュニケーションの幅も広がっています。

お互い言葉が通じない時は、片言の英語で話してみたり、電子辞書をいつも携帯して、それを活用することが多いそうです。



学生サポート・スタッフ

大学は、授業や履修など高校までとは環境が大きく変化するため、入学当初に戸惑いを感じる学生が多くいます。新生が大学での学習や課外活動がスムーズにスタートできるように、学生支援センターでは、平成21年度から学生サポート・スタッフを配置しています。

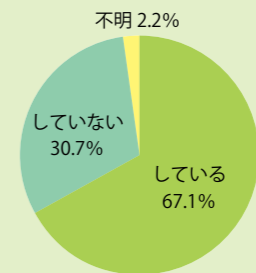
主に3、4回生の学生スタッフが「新生生なんでも相談(クラブ・サークル相談含む)」として気軽に相談相手になってくれるもので、4～5月に週2日(火・金曜日)と履修受付期間の昼休みに、学生支援室で行われています。秋には就職が内定しているスタッフが就職相談を行う場もあります。

事前研修を受ける必要がありますが、謝礼として図書カードが支給されます。

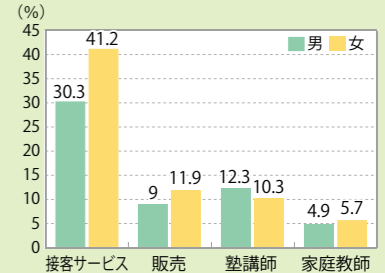
県大生では、アルバイトをしている学生が67.1%で、していない学生が30.7%となっています。また、自宅生の70.6%がアルバイトをしているのに対し、自宅外生では62.6%となっており、アルバイトをしている割合は自宅生が高くなっています。男女別では、女性が69.6%、男性が63.1%で女性がやや高くなっています。していない理由としては、「時間が無い」が最も高くなっています。

アルバイトの職種別では、接客・サービスの割合が最も高く、次いで、塾講師や家庭教師、販売などとなっています。

□アルバイトをしているか



□主なアルバイトの職種



ティーチングアシスタント

大学院生のアルバイトに、ティーチング・アシスタント(TA)があります。TAの仕事は、実験や演習などの授業で、実験の方法やデータのまとめ方を説明することです。仕事の曜日と時刻が決まっているので予定は立てやすいですが、授業の内容を理解して、質問にも答えないとはいけませんので、責任は大きいです。

TAの伊藤直紀さん(工学研究科2回生)、「自分が受講して難しかったところを、気をつけて見てあげています。TAの仕事は自分の勉強にもなります。」



図書情報センターでのアルバイト

人間文化学部地域文化学科の村上由布紀さんは、毎週木曜日、17時から20時まで、図書情報センターの仕事をしています。カウンターで本の貸し借りなどの受付業務と、返却のあった一日分の本を元の位置に戻す作業などを行っています。テスト前は大変忙しいそうで、休日もないくらい受付の人がやってくるそうです。

図書情報センターで働き始めた理由は、本が好きなのと図書館という空間が好きだからだそうです。職員さんもやさしく指導してくれ、週1回でなく毎日でも働きたいとのことでした。



学食でのアルバイト

人間文化学部地域文化学科の宮沙耶加さんは、大学生協の夜の学食での仕事をしています。主な仕事は盛り付けとレジ打ちで、6月は週に2回、7月からは週に3回バイトに入ります。学食でバイトをしようと思った理由は、宮さんは自宅からの通いで、平日地元に戻ってからのバイトは難しいと思ったからです。また、学食でバイトをはじめたのは面白いと思ったこととは何かを聞いてみると、レジ打ちが楽しいと答えてくれました。

After School Report

京滋戦レポート

7月3日(土)京都府立大学において、体育会伝統の定期交流戦「第13回京滋戦(京滋公立大学総合競技大会)」を開催しました。

京滋戦は、滋賀県立大学と京都府立大学の親睦をスポーツを通して深め、日頃の心身鍛練の成果を一同に会して試し、両校のスポーツのレベルアップを図ることを目的に開催しています。会場は毎年両校の持ち回りとなっており、今年は京都府立大学での開催となりました。

開会式では両校応援団長による「果たし状」の交換が行われ、大会を盛り上げました。競技については、朝から強い雨が続き、屋外での競技はサッカーを除きやむなく中止となりました。しかし、サッカーは雨の中グラウンドで、屋内競技は体育館内で各試合とも熱戦が繰り広げられました。

試合結果は昨年の雪辱を果たす形で京都府の圧勝となりましたが、どの試合も非常に実力の拮抗した手に汗握る内容でした。

試合結果		滋賀県立大学	京都府立大学	
バスケットボール	男子	68	75	●
バレーボール	男子	1	2	●
	女子	1	2	●
バドミントン	男子	3	4	●
	女子	1	6	●
サッカー		0	0	●
	PK	5	6	●
フットサル		6	2	●
剣道	男子	1	5	●
	女子	0	3	●
卓球	男子	3	4	●
	女子	5	0	●
硬式テニス	男子	雨天中止		
	女子	雨天中止		
軟式テニス	男子	雨天中止		
硬式野球		雨天中止		

★男子優勝
京都府立大学
(滋賀2-京都12)

★女子優勝
京都府立大学
(滋賀2-京都6)

★総合優勝
京都府立大学
(滋賀4-京都18)
(ポイント：勝ち=2
引き分け=1、負け=0)



競技種目：バスケットボール(男)、バレーボール(男・女)、バドミントン(男・女)、硬式テニス(男・女)、軟式テニス(男)、硬式野球、サッカー、フットサル、剣道(男・女)、卓球(男・女)、弓道(オープン戦)、合気道(合同稽古)

column 京滋戦観戦記

県大伝統の一戦である滋賀県立大学対京都府立大学の京滋戦が今年は7月3日、府立大学にて開催されました。あいにくの大雨でしたが、運営の方々の細やかな配慮により滞りなく進み、府立大応援団のパワフルなエールにより会場は沸きました。

私はフットサルのマネージャーとして参加しました。ワールドカップの影響か、前年より盛り上がったような気がします。選手たちも普段の張り詰めたリーグ戦などとは一味違った雰囲気を楽しみ、楽しむことができ、両校にとって良い刺激となったと思います。

京滋戦に向けて練習を積んでいたにもかかわらず、残念ながら雨で中止になった部活もありました。来年は県立大学で開催される予定です。彼らの1年越しの思いを込めた戦いと、今回の大会で良い刺激を受けた選手たちの成長は必見です。今年来られなかった方、ぜひ足を運んでみてください。(人間文化学部 西村奈月)

Kendai Book Review

『平等院鳳凰堂 現世と浄土のあいだ』

富島義幸 著

環境科学部環境建築デザイン学科准教授
吉川弘文館(2010)

実物をすぐに見に行き、確かめたくなる—この本を読んだときに、まず図や写真などの資料の多さに驚きます。それらを見ているだけでも楽しく、とてもわくわくさせられました。

富島先生は、展覧会でちょうど公開されていた、雲中供養菩薩像を間近に見て、言葉を失うほど感動され、鳳凰堂の研究を始められました。先行研究では、絵画なら美術史のみで考えるなど、狭い範囲で評価がなされ細かいことが

議論されていましたが、この本では、信仰や思想など当時の世界観を鳳凰堂の建築だけではなく、美術品からも見て、総合的に鳳凰堂を見つめています。

通説に立ち向かい、批判を投げ打った富島先生。先生はまた、若い世代にこの一冊をたたき台に、実際に見に行き、本当かどうか確かめて、批判してほしいと語ります。

構想からおよそ10年、先生のメッセージが詰まった一冊です。



Labo Report

人間看護学部 (松本行弘研究室)

「その人らしさ」を支える

今回は人間看護学部の松本行弘教授のゼミをご紹介します。

人間看護学部は専門基礎・基礎看護、母性看護、小児看護、成人看護、老年看護、地域看護、精神看護の専門領域に分かれています。

松本先生の専門領域は精神看護領域といわれる人間のこころの部分に焦点を当てた分野です。人とかかわりが看護の基本となり、学部の授業では対人関係などを中心に学びます。

先生は、主に「人間性心理論(人間看護学部専門科目)」や「セルフケア論(全学共通)」といった科目を担当されています。専門は臨床心理学で、学童期・青年期・老年期の人間を対象としており、病院だけでなく、教育・福祉・地域精神保健をふくめた社会的な部分からアプローチを進め、一人の人間のあり方を社会生活の中でとらえながらサポートしているとしています。

また、ゼミに所属する学生は前期に学童保育や地域支援施設などの見学・実習を通して、自分が何に興味があるのかを考えることができるようになっています。その後、データの収集や解析を行い、考察し、卒業論文としてかたちに残します。

先生が学生に期待することは『対人援助において「その人らしさ」を支えることができる視点が持てること。そして今わからないことにすぐに結果を求めるのではなく、常に考える気持ちを大切にすること』とおっしゃっています。こころの病気が社会的な問題になるなか、ひとのこころに焦点をあてた研究は、今後ますます重要になってくるのではないのでしょうか。



研究室DATA

教授：松本行弘
研究室：E1-201
E-mail：matsumoto@nurse.usp.ac.jp
ゼミ生：小林貴美子、沼田あかね、木下史絵、野口はるな、榎葉友美、辻香奈恵
ゼミ生から一言：
「一人一人に丁寧に接してくれる先生です。」
「熱意をもって研究の指導して下さいます。」

Class Report

使える英語を身につける

英語 (I~IV)

全学共通基礎科目
担当：全学共通教育推進機構

滋賀県立大学は、国際化に対応できる人材の育成を目標に英語教育に力を入れています。

全学共通基礎科目である「英語」は、1回生で英語I・II、2回生で英語III・IVを履修することになっており、英語IIでは、実践的な英語の運用能力向上を目指して、ネイティブ・スピーカーが授業を担当しています。それぞれの教員がユニークな方法で授業を展開し、英語でのコミュニケーションの楽しさを実感することができます。また、英語のクラスは、授業の理解度の向上を図るためにすべて30人前後の少人数制となっています。

本学の特徴として、入学してすぐに全員がTOEICの試験を受験することが義務づけられています。1回生と2回生の後半にも



同試験を受けることになっていて、英語力の向上を確認しながら、学習できる環境が整っています。こうした取り組みを支援する体制として、e-Learningのプログラムがあり、図書情報センターの端末を利用して、TOEIC対策など各自の能力に合わせた学習ができるようになっています。

海外留学だけでなく、就活にも英語の能力が重視される時代です。恵まれた環境を存分に活かして実践の場で使える英語を身につけましょう。

Information

- ### 受賞・表彰
- ・嶋本謙 滋賀県立大学名誉教授
瑞宝中級章
 - ・村井康彦 滋賀県立大学名誉教授
瑞宝中級章
 - ・人間文化学部生活栄養学科 廣瀬潤子助教
日本農芸化学会2010年度大会
トピックス賞
 - ・大学院環境科学研究所
博士前期課程2回生 宮窪 翔一さん
博士前期課程1回生 田邊 智美さん
KOKUYO DESIGN AWARD 2009優秀賞
 - ・大学院環境科学研究所
博士前期課程1回生 武藤 浩憲さん
博士前期課程1回生 小菅 一也さん
第13回HCO(快適住宅)コンテスト提案部門
「FRCOインターカレッジ選手権2009」
選外佳作
 - ・大学院工学研究所
博士前期課程2回生 井川 達朗さん
(社)自動車技術会、2009年度
大学院研究奨励賞
 - ・大学院工学研究所
博士前期課程2回生 松田 成勝さん
博士前期課程1回生 森 良平さん
「日本機械学会」
Dynamics and Design Conference 2009
日本機械学会若手優秀講演フェロー賞
 - ・「日本機械学会」
第85期定時総会講演会「
日本機械学会若手優秀講演フェロー賞」
 - ・人間文化学部生活デザイン学科
博士前期課程1回生 森 良平さん
「日本機械学会」
第85期定時総会講演会「
日本機械学会若手優秀講演フェロー賞」
 - ・人間文化学部生活デザイン学科
WORLD SPACE CREATORS AWARDS 2010
学生部門大賞(優秀賞)
 - ・人間文化学部生活デザイン学科
21年度卒業生(12期生) 江口 倫子さん
第13回木材活用コンクール
奨励賞

着任

平成22年4月1日付

人事異動

川口 逸司 副理事長 人間看護学部 教授	田端 泰子 理事(非常勤)	奥村 隆志 監事	小野 奈々 環境科学部 助教	柴田 裕希 環境科学部 助教	バブチャンドラン ジャヤティン 工学部 教授	秋山 毅 工学部 准教授	近藤 千尋 工学部 助教	山田 逸成 工学部ファースト工学研究センター 助教	森 紀之 人間文化学部 助手	飯降 聖子 人間看護学部 教授
----------------------------	------------------	-------------	-------------------	-------------------	---------------------------	-----------------	-----------------	---------------------------------	-------------------	--------------------

荒川 千登世 人間看護学部 准教授	糸島 陽子 人間看護学部 准教授	植村 小夜子 人間看護学部 准教授	甘佐 京子 人間看護学部 准教授	松井 陽子 人間看護学部 助教	川端 智子 人間看護学部 助手	北脇 愛野 人間看護学部 助手	馬場 文 人間看護学部 助手	奥村 史代 人間看護学部 助教	田中 隆宇 人間看護学部 助教	平居 隆之 人間看護学部 助教	北辻 志保 人間看護学部 助教	松野 祐子 人間看護学部 助教	上坂 効 人間看護学部 助教	藤野 宜昭 人間看護学部 助教	山下 宗英 人間看護学部 助教	大西 宗英 人間看護学部 助教	松浦みのり 人間看護学部 助教	石田 万貴 人間看護学部 助教	大澤 孝史 人間看護学部 助教
----------------------	---------------------	----------------------	---------------------	--------------------	--------------------	--------------------	-------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	-------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------

所属替え

副主幹 小椋 茂 (財務グループより)	主幹 田辺 善美 (経営戦略グループより)	主任主幹 三浦 寛二 (図書情報グループと兼務)	統括 久保田 貢 (経営戦略グループより)
------------------------	--------------------------	-----------------------------	--------------------------

退職

近 雅博 環境科学部 教授	奥貫 隆 環境科学部 教授	田中 勝之 工学部 教授	田中 敬子 人間文化学部 教授	石田 英實 人間看護学部 教授	平河 勝美 人間看護学部 教授	北川かほる 人間看護学部 教授	堀井とよみ 人間看護学部 教授	西島 治子 人間看護学部 准教授	西田 厚子 人間看護学部 准教授	家根 明子 人間看護学部 助教	岡本 里香 人間看護学部 助教
------------------	------------------	-----------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	---------------------	---------------------	--------------------	--------------------

Topics & Information

TOPICS 01

科学研究費補助金の新規採択率で公立大学トップ

文部科学省より平成22年5月25日付けで、平成22年度の科学研究費補助金(科研費)の配分結果がとりまとめられました。(4月1日に交付内定)のあった研究種目)その結果、滋賀県立大学は新規採択分の採択率が32.6%(採択件数30件)となり、全国で21位、公立大学中ではトップとなりました。

機 関 名	採択率(%)	採択件数
1 一橋大学	63.0%	46
2 東京外国語大学	46.2%	36
3 学習院大学	40.0%	28
4 国立遺伝学研究所	38.5%	25
5 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター(東京都健康長寿医療センター研究所)	37.1%	23
6 京都大学	37.0%	808
7 東京大学	36.3%	985
8 立教大学	36.2%	38
9 独立行政法人国立国際医療研究センター	36.0%	27
10 上越教育大学	36.0%	18
11 生理学研究所	35.2%	19
12 立教大学	35.0%	43
13 電気通信大学	34.6%	62
14 独立行政法人国立成育医療研究センター	34.6%	28
15 慶應義塾大学	34.1%	313
16 関西学院大学	33.8%	49
17 奈良先端科学技術大学院大学	33.0%	61
18 中央大学	32.8%	21
19 分子科学研究所	32.8%	19
20 大阪大学	32.6%	729
21 滋賀県立大学	32.6%	30
22 独立行政法人宇宙航空研究開発機構	32.3%	31
23 首都大学東京	32.1%	126
24 静岡県立大学	31.9%	46
25 財団法人医学研究機構	31.9%	37
26 九州歯科大学	31.9%	22
27 千葉大学	31.7%	246
28 南山大学	31.5%	17
29 謝恩研究会	31.3%	20

TOPICS 02

平成22年度近江楽座プロジェクト決定

平成22年度の近江楽座のプロジェクトを選定するため、5月22日(土)に、公開プレゼンテーションと審査会が行われました。「継続プロジェクト」、「新規プロジェクト」の二つの区分でプロジェクトを募集し、応募件数は24件となりました。(新規6件、継続18件)プロジェクトの申請書と公開プレゼンテーションの結果をもとに、厳正に審議したうえで、別掲の22件を本年度の「近江楽座」プロジェクトとして選定しました。

番号	チーム名	プロジェクト名
1	男鬼楽座	限界集落の村おこし
2	古民家楽座	いかして民家?
3	とよさと快蔵プロジェクト	とよさと快蔵プロジェクト
4	菜の花エネルギー	菜の花エネルギー
5	一姓(いっしょう)	一姓(いっしょう) ~畑に出会いの種をまこう!~
6	Taga-Town-Project	Taga-Town-Project
7	とよさらだプロジェクト	とよさらだプロジェクト
8	エコキャンパスプロジェクト木楽部会	エコキャンパスプロジェクト木楽部会
9	あかりんちゅ	灯りちゅ〜リサイクルキャンドルでスローな夜〜
10	県地域食育推進隊	Shiga 食育推進プロジェクト
11	荒神山ロックフェス実行委員会	荒神山ロックフェス 2010
12	未来看護塾	未来看護塾
13	七曲りていっちょやっつたるか!!	七曲りていっちょやっつたるか!!
14	廃棄物バスターズ	Let's 複合
15	ボランティアサークル Harmony	福が児・者、自立支援・共生社会プロジェクト
16	DIG'S	ART FORUM 2010 DIG'S
17	長浜 BASARA 湖北	戦国プロジェクト
18	おとくらプロジェクト	おとくらプロジェクト
19	生活デザイン学科 14 期生	Living design 14th FASHION SHOW
20	信・楽・人-field gallery project-	信・楽・人-field gallery project-
21	チーム・パンデイル・ジ・オウロ	パンデイル・ジ・オウロ
22	いしアート	石山アートプロジェクト

TOPICS 03

県立3機関で統合研究



本学と琵琶湖環境科学研究センター、琵琶湖博物館は、3月29日、琵琶湖の統合研究を進めることで基本合意しました。琵琶湖研究を中心に研究者同志の連携だけでなく組織としての連携も強化し、大規模で質の高い研究を目指すこととなりました。当面は、「地域住民による琵琶湖沿岸の(生命の脈)総合調査の方法論と具体的手法の確立」、「大気降下物が琵琶湖とその集水域に与える影響の評価」、「南湖生態系の総合的・順応的管理に関する研究」の3テーマを最優先で取り組むことになっています。

TOPICS 04

優秀職員表彰式

本学では、特に顕著な業績のあった職員に対する優秀職員表彰制度を設けています。各学部等から推薦を受け学内にて審議した結果、4名の職員について優秀職員として表彰することを決定し、去る6月8日(火)に表彰式を行いました。表彰者は次の方々です。



- 奥貫 隆 教授
環境科学部
- 倉茂 好匡 教授
環境科学部
- 坂本 真一 准教授
工学部 電子システム工学科
- 佐々木一泰 講師
人間文化学部 生活デザイン学科

※平成21年度所属氏名